

大空に翔る

地区協議会だより



第54回山形県スポーツ少年大会
兼平成30年度ジュニア・リーダーズスクール(村山地区協議会)



最上地区スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会
(最上地区協議会)



置賜地区スポーツ少年団リーダー研修会(置賜地区協議会)



2018日独青少年指導者セミナードイツ団受入(庄内地区協議会)

ます。あふれる社会になることを祈っております。

平成最後の年、穏やかな新年を迎えられたこと存じます。一年一社会の動きも激しく、いつ何が起きてもおかしくない時代になっており、スポーツ少年団員には日々の活動を通し、どんな時代でも生き抜いていける力を育ててほしいと思います。

私事ではございますが、昨年四月に「ミズノスポーツメントール(指導者賞)」の荣誉に浴することができました。これまでご指導いただきました先輩指導者、関係者の皆様、また、一緒に活動してきた皆様に深謝いたします。そして、昨年十月に日中青少年スポーツ指導者交流派遣事業日本団団長として、十日間シルクロードに位置する甘肅省で新しい中国のスポーツ事情を見聞して来ました。続き十一月には日独青少年スポーツ指導者交流受入事業を庄内で受入、ドイツ団のマティアス団長以下七名と三泊四日交流しました。二つの国際交流に関わり、改めて「世界はひとつ」を実感したところです。

いよいよ来年は「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。準備も大詰めを迎え、日本中盛り上がることでしよう。これを機会に子どもたちのスポーツ参加がさらに増え、笑顔



「世界はひとつ」
生きる力の育成を

山形県スポーツ少年団
本部長 村田 久忠

**2018年日独青少年指導者
セミナードイツ団受入**

山形県スポーツ少年団庄内地区協議会

十一月五日(月)から八日(木)までの四日間、2018年日独青少年指導者セミナー東北地方プログラムの前半として、ドイツ団七名の受け入れを行った。本事業は、日独両国の青少年指導者が相互に交流し、両国の理解と交流を深め、青少年指導者の資質向上と、両国間における青少年交流の発展を図るために毎年実施されており、今年度は東北ブロックが受入担当地域であったことから前半を山形県、後半を秋田県で受け入れることとなった。交流における共通テーマは「Road to Tokyo 2020オリンピック・パラリンピックムーブメント」となっている。山形県としては県内各市町でのホスタウン登録が主な「オリンピック・パラリンピックムーブメント」となり、村山市のブルガリア新体操チームや長井市のタンザニア長距離チーム



の合宿などが各種メディアに取り上げられている。庄内では酒田市がニユージールランドのホスタウンに、鶴岡市がドイツのホスタウンに登録し、鶴岡市では「ボツチャ」のドイツ代表を招いての交流も実施している。今回来県したドイツ団もおり、鶴岡市がドイツに視察に伺った際に対応してくださっていたとのことだった。そのため、鶴岡市を訪問できたことが大変うれしいとおっしゃっていた。しかし、共通テーマが「オリンピック・パラリンピックムーブメント」となっているものの、地方においてはホスタウンの取り組み以外具体的な動きや意識はまだ無く、今回ドイツ団には鶴岡市を中心とした生涯スポーツ振興や学校教育、庄内地区の文化について研修していただくことを目的としプログラムを組んだ。



受け入れ一日目は昼過ぎの鶴岡到着であったが、鶴岡市小真木原総合体育館にて鶴岡市のスポーツ施策、施設、設備面の整備状況、2020東京オリンピック・パラリンピックのホスタウンについての取り組みを紹介させていただいた。鶴岡市がドイツのボツチャチーム受入れを予定していることもあり、大変興味深く話を聞いていた。二日目は鶴岡市のスポーツ推進事業「みんなで歩こう里山歩き」のコースの

一つである「羽黒山修験の道コース」を体験していただき、羽黒山の石段を実際に上っていただいた。あわせて、出羽三山神社の信仰についても学んでいただいた。鶴岡市では生涯スポーツの振興のために、観光や文化とスポーツを融合させた「里山歩き事業」を行っており、特徴的な取り組みとして紹介させていただいた。羽黒山の石段上りは90分程度の、運動強度が強めの運動になるが、途中で杉並木をはじめとする景観を楽しんだり、山頂で出羽三山神社の宮司さんの話を聞いたりすることで、運動することに更なる付加価値を与える取り組みであることを体感していただけた。午後は、羽黒高等学校の部活動を見学させていただき、たくさん生徒が様々なスポーツや吹奏楽、演劇、自動車整備といった各自の趣向に合わせた活動に、学校として取り組んでいる様子を見ていただいた。

三日目は、鶴岡市立朝陽第二小学校を訪ね、体育の授業参観と学校給食の試食をさせていただいた。授業でも給食でも、子どもたちが規律を持って、自分の役割に進んで取り組んでいる様子に感心していた。また、小真木原総合体育館と朝陽武道館で行われている夜間のスポーツ活動見学も行い、柔道やヨガ教室に参加させていただき交流することもできた。

受け入れ最終日の四日目は、はじめに鶴岡市立第五中学校で保健体育の授業を参観させていただいた。楽しそうにバレーボールに取り組む男子生徒を見て、ドイツ団もコート内へ入り、担当の大場教諭のはからいで日独バレーボール交流も実現した。その後は、秋田県への引き渡しもあることから、酒田市での文化研修プログラムを実施した。国の登録有形文化財である相馬樓見学を通して、酒田の料亭文化や酒田舞娘の文化を継承する取り組みを紹介した。自分たちの文化を大切にし、後世に継承したいと思う気持ちに共感していただいた。最後に米どころ庄内を代表する施設である山居倉庫とケヤキ並木を見学し、「美しい庄内」のイメージを持ったまま、秋田県へと旅立っていただいた。



庄内地区での受け入れではあったものの、研修の内容やドイツ団の要望を考慮して鶴岡市を中心に研修していただくことになり、鶴岡市教育委員会と鶴岡市スポーツ少年団本部の全面的な協力を得て充実した四日間を過ごしていただくことができた。今回来日された指導者の皆さんがそれぞれのスポーツユースで研修の成果を発揮し、団員を育て、今後も交流が継続されることを願うとともに、日本でも日独同時交流派遣に参加できる団員の育成を継続していかねばならないと感じた四日間だった。

はじめての交流も実現した。その後は、秋田県への引き渡しもあることから、酒田市での文化研修プログラムを実施した。国の登録有形文化財である相馬樓見学を通して、酒田の料亭文化や酒田舞娘の文化を継承する取り組みを紹介した。自分たちの文化を大切にし、後世に継承したいと思う気持ちに共感していただいた。最後に米どころ庄内を代表する施設である山居倉庫とケヤキ並木を見学し、「美しい庄内」のイメージを持ったまま、秋田県へと旅立っていただいた。



平成三十一年度山形県スポーツ少年団事業

第五十四回山形県スポーツ少年大会
兼ジュニア・リーダーズスクール

山形県スポーツ少年団
活動委員 柴崎 美枝

第五十四回山形県スポーツ少年大会兼平成三十一年度ジュニア・リーダーズスクールが、八月三日〜五日までの二泊三日、山形市少年自然の家において開催されました。スポーツ少年大会には小学五・六年、ジュニア・リーダーズスクールは中学生が参加しました。

最初は、皆緊張して表情も硬かったのですが、アイスブレイクや交流活動と時間が経つにつれ笑顔も見られるようになりました。

交流活動の一つ「いかだ活動」においては、初めていかだ体験をした参加者がほとんどだったと思います。オールを手にいかだに乗ったものの、班員みんなと呼吸を合わせないといかだは前進しません。中学生ともなると



自然と掛け声も出てきますが、小学生には班長がいかにリードするかがポイントになったようです。

しかし、最後の方では、どの班もバランスを取りながら楽しんでいたようです。



「野外炊飯」では、縦割り班でご飯や野菜炒めを作りました。上の子が、下の子に包丁の持ち方、野菜の切り方、炒め方を教えている姿も見受けられました。自分たちで作った食事は格別だったことでしょう。後片付け時に洗い場に出してしまうご飯や野菜クズを最初は触ることすら躊躇していた一人の男子。ところが、リーダーや私と一緒に流しの掃除を始めたら、黙々と作業をして、「綺麗になって、気持ちいいです!」と、実に爽やかな笑顔を残して去っていった姿が印象的でした。

今回は、例年より少なめの参加者ではありましたが、アットホームな雰囲気だったように感じました。

団員たちがリーダー、指導者となり、笑顔で再会出来ることを期待します。

平成三十一年度山形県スポーツ少年団指導者・育成母集団研修会

西村山地区スポーツ少年団
指導者協議会会長 奥山 淳一

十一月十日(土)に、寒河江市のホテルサンチェリーにて、標記研修会が開催されました。西村山地区での開催は平成二十二年度に寒河江市で行われて以来です。

県内のスポーツ少年団活動に熱心な指導者・母集団の方々や教育行政関係者など、一六七名が集い、これからのスポ少のあり方などについて学び合いました。

ジャーナリスト島沢優子氏を迎えての講演では、「スポーツの不祥事が続く今、だから考えたい子どもたちの未来を照らす大人像とは」と題し、体罰、自殺、パワーハラスメントなど、今のスポーツ界の問題点について、具体的な事例を基に、これからの指導のあり方について大きな示唆を与えていただきました。

私たち指導者は、自分の経験に基づいた技術指導だけでなく、それをベースにした新しいコーチング法、トレーニング法、メンタル指導、組織マネジメント、



スポーツ医科学などを幅広く身に付け、子ども目線での運営・管理・指導が求められることを再確認することができました。

あくまでも選手ファーストで、指導者の自己承認欲求よりも、子どもの成長を軸にした指導が求められます。これからの激しく変化する時代を生き抜く子どもたちが、自己肯定感や自尊感情を高め、主体的、積極的にスポーツに親しみ、何事にも負けない、めげない、へこたれないレジリエンスの心を身に付けられるように、私たち指導者は学び続けていく必要性を痛感しました。

研究協議では、「スポーツ少年団、さらなる発展のために」魅力ある団活動を目指して「をテーマとして、二つの実践発表「児童減と団員減少リンクせず」(朝日野球スポーツ少年団)「青少年の健全育成と善導への取り組み」(新庄市柔剣道練成会スポーツ少年団)を基に、熱心な協議がなされました。最後に、遠藤啓一県スポーツ少年団副本部長より具体的な助言をいただき、有意義で貴重な研修会の幕を閉じました。



山形県スポーツ少年団 リーダー会紹介

スポーツ少年団活動は小学生だけの活動と思われがちですが、実は中学生、高校生、大学生になっても活動を続けることができます。その仕組みを知らなかった、部活動が忙しくて積極的に団活動に参加できないといった理由で、中学生以上の団員が少ないというのがここ最近の状況です。スポーツ少年団活動というのは、各競技の専門技術を伸ばすということが目的ではなく、

スポーツを通して豊かで健康的な心と身体を成長させる場でもあります。スポーツ少年団では、中学生以上の団員をリーダーと呼んでいます。リーダーの中には、中学生になってからも、小学校で取り組んできた活動を続けたい、将来はスポーツに関わる仕事に就きたい、また、指導者等になって生涯を通してスポーツ活動をしたといった理由を持って活動している人がいます。山形県にはこのような様々な目的を持った人たちが集まる、「山形県スポーツ少年団リーダー会」という

組織があります。山形県内で団員登録をしている高校生から二十二歳までの人なら誰でも参加することができます。現在は二十三歳以上になり社会人となってもアドバイ



ザーとして活動に協力してくれている人たちも多々います。リーダーという存在にあまりなじみのない人が多いと思いますが、リーダーは指導者とは区別されており、指導者と団員を繋ぐ役割を担っています。小学生の団員とも年齢が近いため、お兄さん、お姉さんのような存在であり、競技においても身近な目標とも言えます。リーダー会の主な活動は研修会の参加、交流会やリーダースクールの運営補助などがあります。活動範囲は県内だけでなく、北海道・東北地方や日本全国と、幅広く活動しています。指導者だけでなく、リーダーが中心となって活動することも多く、イベントの企画・運営、会場の準備など、メンバー全員で責任を持って仕事をするという経験は、普段の生活では感じる事ができない充実感と達成感を得ることが出来ます。こうした活動の経験をリーダーが所属する各団活動に活かし、より良い団活動を行っています。リーダーには認定制度があり、毎年県内で中学生を対象に開催されるジュニア・リーダースクールに参加すると、ジュニア・リーダーの認定を受け、更に日本全国の高校生と大学生を対象としたシニア・リーダースクールに参加すると、シニア・リーダーの認定を受け、毎年全国で開催されている日独(ドイツ)



同時交流の派遣資格を取得でき、約三週間ドイツのスポーツ少年団とスポーツ交流などを通じて、国際経験を積むことができます。こうした経験を積んだリーダーは、将来指導者として登録する場合には認定員の資格が付与されます。リーダーの活動は、自分の所属する団だけでなく、日本全国、そして世界へ自分の活動の場を広げることができ、スポーツを通して普段の生活に對しての自分自身の視野も大きく広げることが出来ます。学校生活や部活動だけでは決して味わうことのできない社会経験ができるだけでなく、一生の思い出になるような特別な体験をすることが出来るのも、リーダー活動の魅力です。最初は不安や心配なことが多いかもしれませんが、自信を持って大きな一歩を踏み出し、一緒に人生のスキルアップを目指してみませんか？ 県内にはジュニアとシニア・リーダーの資格を持った団員が少ないため、多くの単位団からリーダーや指導者を目指す中学生、高校生が増えてくれることを願っています。活動内容やその他イベントなどについての手続きや疑問点などは、各単位の指導者、または山形県スポーツ少年団事務局までお問い合わせください。みなさんと一緒に活動できることを、山形県リーダー会の全員が心から楽しみにしています。



市町村の動き

尾花沢市スポーツ少年団本部事務局

尾花沢市スポーツ少年団本部は、昭和三十八年に設立され、今年度で五十五年目となります。平成二十三年からはNPO法人尾花沢総合スポーツクラブが事務局を担当しています。現在、単位団十七団、団員三九一名、指導者一六四名の登録で、日々活動しています。尾花沢市では、地域性を生かし、一年を通して季節に応じた活動を行っています。各単位団どの種目においても、実践的な指導力をもった指導者が熱心に指導をしています。



市本部でも、毎年十二月に市スポーツ少年団本部交流大会を開催して、「運動適性テスト」を実施しています。各団員が自分の体力を測定して今後の活動に生かすとともに、普段は一緒に活動することのない団員とも交流を深めています。山形県では、アクティブ・チャイルド・プログラム(以下、ACP)の普及が課題になっています。十一月には本市を会場に、北村山地区指導者研修会を開催し、ACPの活用についての講演及び実技講習会を行いました。幼児期から運動やスポーツに親しみ、地域のかかわりの中で心も体も成長できるように、市本部としても力を入れていきたいと思っています。少子化や家庭環境の変化もあり、単位の統廃合や団員数減少が現状です。まずは子どもたちがスポーツをしやすい環境づくりを目指して、行政や学校スポーツクラブ、スポーツ関連団体との連携を強化し、子どもたちの健全育成に取り組んでいきます。

単位団紹介

天童ジュニアテニスクラブスポーツ少年団(天童市)

代表指導者 舟山 博夫

天童ジュニアテニスクラブスポーツ少年団は、中学生を対象としたクラブで、団員は男子三名、女子十一名の団員構成となっています。ほとんどの団員は、姉妹関係である小学生対象の天童スカイクッズスポーツ少年団の出身となっています。近年、少子化、中学校に部活がないという理由で、小さい頃にテニスに親しむというお子さんも減少しているように思われ、団員の募集に苦慮しています。

団員の活動は、県内で行われる大会や東北大会などの上位大会を目指し、日々の練習、強化練習会、他クラブとの親善試合を行っています。実際、団員や先輩たちは、県大会、東北大会でも活躍し、高校の部活で活動する先輩たちも多数います。団の目的は、勝つことばかりでなく、フェアプレーを重んじ、目標に向かって努力する過程を重要視し、団員同士の融和を図ることです。また、市営コート整備などのボランティア活動を通して、社会貢献の経験をすることも重要視しています。団員、指導者、育成母集団の連携を図るため、毎月の会報の発行や親睦会の開催も行っています。将来、子どもたちがこの団での経験が今後の人生において有意義な時期であったと思えるような活動にしたいと思っています。



戸沢道場柔友会スポーツ少年団(戸沢村)

指導者 安食 仁美

創設二十周年を迎える本団は、道場に掲げる「流汗悟道」と社会に貢献できる大人になることを大きな目標とし、人とのふれあいや努力する大切さを親子で感じられる活動を続けています。幼児から中学生までが在籍する環境を活かし、健全な心の成長が稽古を通して図られるよう配慮しています。



近年は団員の減少が続いていますが、多くの仲間とともに励まし合い切磋琢磨できるよう、県内外の指導者・保護者と連携・協力し、子どもたちにとってより良い環境・場所づくりを力を入れています。柔道以外のスポーツに触れたり、奉仕活動や地区行事へ参加したりするなど、多くの経験を通して「地域の一員としてできることをする」気持ちで育ってきていると感じます。

また、柔道で勝つことが目的ではなく、取り組みの一つ一つが大切ですが、頑張りや認められることを経験することも子どもたちにとってはとても大切なことだと思います。道場内や村内で大会を開いたり、各地の大会に参加したりし、すべての子どもが活躍する機会を多く設けています。道場の卒業生には「こんな田舎からでも、頑張れば世界大会に出場できる」ことを目標に稽古を続け、見事に世界大会入賞した選手もおります。小さな村の道場ですが、頑張りや実を結ぶ子どもたちの居場所として、これから子どもたちの健全育成に力を入れていきます。

まほろばアスリートクラブスポーツ少年団(高島町)

代表指導者 我妻 徳一

平成十七年、小学生にスポーツの楽しさを教えたいと、高島町陸上競技協会会員と一緒に陸上競技を中心としたスポーツ少年団を立ち上げました。初年度は三十二名からのスタートでした。指導内容が陸上種目だったため指導者の確保に苦慮しました。しかし、現在では陸上協会の協力により十名の指導者(全員が認定員、内J A F F公認ジュニアコーチが三名)で、毎週日曜日の午前中に練習を行っています。毎年、南陽・東置賜地区学童陸上記録会(伊澤まさ子杯)、県小学生陸上競技大会、県少年少女スポーツ交流大会に参加しています。

地区学童記録会では、大会新記録で優勝するなど団員の活躍が見られるようになってきました。

米沢・川西・高島のスポ少記録会「たかはた記録会」は、今年で三回目を迎え、当団が開催しています。今後とも継続し、他団との交流を深めたいと思っています。

卒団員の活躍も著しくインターハイなどの全国大会で活躍しています。高校生は部活のない日に練習に参加してくれます。また、卒団員の保護者が陸協に入会し、認定員の資格を取得し、指導者として活躍しています。このように、長く交流が続くことを大変嬉しく思っています。これからも、地域が一体となり活躍できる活動をしていきたいです。



陽光卓球スポーツ少年団(鶴岡市)

代表指導者 上野 義弘

我が少年団は今年度で設立三十九年を迎えました。平成二十六年四月、少子化に伴い田川小、湯田川小、朝陽第四小の三つの小学校が統合し新しい朝陽第四小が誕生しましたが単位団名は変更することなく、子どもたちは元気に楽しく活動しています。活動のねらいは子どもたちに「遊び場」を提供することであり、先人指導者たちは、競技よりも遊びを通して心と身体の育成に努めてきました。



平成に入り、ジュニアの育成にも力を入れ、リーダー制度に基づき中学生、高校生を登録するようになりました。資格取得のために県のジュニア・リーダースクールに団員を派遣し、知識を持ったリーダーを育てました。また、小学生団員も県スポーツ少年大会等に参加し、県内の団員と交流を深めることができ、団活動がいつそう活発になりました。その後、ジュニアリーダーの認定資格を持つ高校生団員をシニア・リーダースクールに派遣し、参加した団員個々が価値観や視野を持って活動し、成長することを願いました。そして、シニアリーダーの認定資格を持つ団員は日独同時交流に派遣し見聞を広げ、国際経験をいかした活躍を期待しているところです。団員には、これからも団員交流と資格取得を薦め、県スポーツ少年大会、東北ブロックスポーツ少年大会、全国スポーツ少年大会、あわせてジュニア・シニア・リーダースクール等、健康で豊かな心と身体を成長させる「場」に毎年参加させたいと思っています。

団員の夢

「六年生に向けて」



鶴陵剣道
スポーツ少年団(山辺町)
曾根原 奏太

ぼくが剣道を始めたきっかけは、テレビで剣道の試合を見てとてもカッコいいなと思ったからです。体験に行き実際やってみると上手く打てず、隣で練習している先輩たちのようにうまくなりたいと思い入団しました。

ぼくは来年から六年生になります。ぼくがこれからの剣道で頑張っていきたいことが三つあります。

一つ目は、先生がいつもぼくたちに言っている「逃げない」ということです。相手と身長差がはげしく、相手の方が力が強くても絶対に逃げずに立ちむかっていき、一本を取ることです。

二つ目は、剣道の練習内容の一つである基本練習です。ぼくは戦いに夢中になるとかまえをするのを忘れてしまったり、足を右と左逆にしてしまったりするので、基本練習を一つ一つしっかりやっていきたいです。

三つ目は、今までの先輩たちのように、チームを引っばっていきけるように仲間と協力していくことです。ぼくは今年初めて団体戦に出場しました。結果は引き分けでした。しかし、その後先輩の勝利により一回戦を突破することが出来ました。ぼくは団体戦に勝つことが出来てとてもうれしかったです。今年是一本を取れるように頑張っていきたいです。

「ぼくの夢」



鮭川バドミントン
スポーツ少年団(鮭川村)
八 鍬 京也

ぼくは一年生の時にバドミントンスポーツ少年団に入りました。きっかけは、父が指導者をしていて、姉も入っていたからです。

最初はラケットにシャトルを当てるのも難しかったけれど、だんだん出来ることが増えて、三年生の地区大会のシングルスで二位になりました。四年生の県大会で今度はダブルスで三位になり、新庄市で開催された東北大会に出場しました。今年もダブルスで東北大会に行くことができました。来年も出場できるように頑張りたいです。

来年、僕は六年生になります。中学校の部活動のことも考えないといけない時期ですが、鮭川中学校にはバドミントン部がありません。僕は大好きなバドミントンを続けたいと思っていますので、早く部を作って欲しいです。

最後に僕の夢は、山形県の試合で上位になり、山形県の代表選手に選ばれることです。そのためには、まず自分のミスを減らし、フットワークを速くし、あきらめずに考え、確実に点を取ることが大事だと思います。これからも練習をしっかりとやりたいです。

「野球から学んだこと」



小国野球
スポーツ少年団(小国町)
渡 部 優也

ぼくが野球スポーツ少年団に入団したのは、三年生の時でした。兄が活動していたこともあり、試合や練習を見に行っていました。

そんな時、よく外野裏でキャッチボールをしていました。そうするうちに、だんだん野球が楽しくなり、入団を決意しました。入団した頃は、練習についていくのに精一杯でした。キャプテンとなった今は、練習は楽しいけれど、みんなを引っ張っていくことがとても大変だと思っています。

はじめ、チームをまとめることができず、試合では負けてばかりでした。しかし、試合を重ねるたびにチームがまとまっていき、今年の飯豊連峰杯では優勝することができました。野球をとおして、仲間を信じ、最後まであきらめない気持ちが大切だと感じました。

ぼくの将来の夢は、プロ野球選手になり活躍することです。スポーツ活動で学んだチームワークを大切にして、これからも練習に励んでいきます。

ぼくは今、ひじをけがしていてボールを投げられません。中学校入学前にはけがを治して、「兄のシヨートのポジションをとってやる！」という強い気持ちでのぞみたいですね。

「バドミントンを通じて」



立川バドミントン
スポーツ少年団(庄内町)
松 田 光歩

私がバドミントンを始めたきっかけは、親に勧められたからです。でも今は、バドミントンをやって良かったと思っています。その理由は二つあります。

一つ目は、体力がついた事です。私は一年生からバドミントンを始めましたが、その時の学校の持久走大会では体力が無く、入賞する事はできませんでした。でも今は、入賞する事が出来るようになりました。それはバドミントンがとても脚力、持久力を必要とする競技だからだと思います。

二つ目は、表彰される喜びです。私が一年生の時に県のシングルス大会に出た時は、一年生が三人しかいませんでした。結果は三位でしたが、たくさん選手の前で表彰された事はとても嬉しかったです。今は同じ学年にライバルもいて、うかうかしていられません。そんな中で表彰される事は、とても大きな喜びです。

来年度からは中学生になります。中学の大会では、全学年と一緒に試合をします。勝って表彰をいただく事はとても大変だと思いますが、一つでも多くいただけるように頑張りたいと思います。

●全国スポーツ少年大会

「全国スポーツ少年大会に参加して」

橿引体操スポーツ少年団（鶴岡市）

佐藤 和

私は昨年度も全国スポーツ少年大会に参加していたので、今回の全国スポーツ少年大会は、あまり緊張せず楽しむことができました。



今回私は班長となつて、みんなをまとめる責任感と協力することを学びました。班長になることに不安はあったものの、班のみんなと仲良くなり、色々と思見を出し合ううちにその不安も消えていきました。最終日には班のみんなと過ごすことがとても楽しくなり、「もつと一緒にいたい。」という気持ちが強くなっていました。大会の終わりが近づくにつれ、みんなとの別れがつかなく、悲しくてしかたがありませんでした。大会が終わった今でも、大会での思い出は大切な宝物となっています。

私は、スポーツが友達の輪を大きく広げるといふことを実感しました。もう会えないかもしれないけれど、楽しいこと、つらいことを一緒に過ごした友達とつながれることを心に刻み、これから地域でのスポーツ活動を続けていきたいと思ひます。

●東北ブロックスポーツ少年大会

「東北ブロックスポーツ少年大会に参加して」

青葉剣道スポーツ少年団（川西町）

金子 翔磨

東北ブロックスポーツ少年大会に参加して、様々なことを学ぶことが出来ました。一つ目は、人との関わりについてです。どんな活動をするにも一人では出来るはずもなく、仲間の協力が必要でした。私は、自分から人に話しをするタイプではないため、苦労しました。初対面の人に、どのように声をかければいいのか考えながら友だちを作っていました。

二つ目は指示の出し方です。私は、学校生活でも指示を出す場面がありますが苦労しています。カレー作りの時は、指示を出すことができず具材を切る係と煮る係などを分担することができませんでした。しかし、そんな時も友だちが助けてくれました。三つ目は、友だちの大切さでした。困った時に助けてくれる人がいるのはありがたいことだと思ひました。

今回の東北ブロックスポーツ少年大会では日々の生活ではなかなか経験できない貴重な体験が多くありました。関係の方々に感謝の気持ちを忘れないようにして生活していきたいです。



●日独スポーツ少年団同時交流受入

「日独スポーツ少年団同時交流を体験して」

二井宿スポーツ少年団（高島町）

秋葉 直人

ぼくは、ドイツの方と初めて会いました。流しゲーム「ウボゴ」をしました。最初は、言葉が通じないので、うまくコミュニケーションをとれるか心配でした。しかし、色々な活動をしているうちに、少しずつコミュニケーションがとれてきて良かったです。



流しゲームでは、竹林に行つて、自分たちで竹をとつてきて流しそうめんの装置を作ったり、はしを作ったりしました。ボードゲームでは、ドイツの方のピースを組み合わせるスピードが速くてびっくりしました。

ドイツの方と交流してみても思ったとは、年齢や言葉がちがっていても仲良くなれるということです。ドイツの方以外にも、色々な国の人と交流してみたいと思ひました。学んだことをこれからのスポーツ少年団活動に活かしていきます。

●日独スポーツ少年団同時交流派遣

「日独スポーツ少年団同時交流派遣に参加して」

中山町スポーツ少年団（中山町）

加藤 千紘

私はドイツでの十八日間で同世代のホストファミリーとともにスポーツ交流や観光、ディスカッションなど様々な経験をしました。スポーツ交流では、アクアボールという障がい者と健常者が一緒にプレーする水球のようなスポーツを初めて体験しました。日本でも車椅子バスケットボールやブラインドサッカーなどはありますが、実際にそれを体験する機会が多くありません。ドイツは障がい者が一緒に何かを行なうことが普通です。意識の違いを理解しながらプレーしたアクアボールは本当に楽しかったです。日本にも広まってほしいと思ひました。

この体験によつてもつと障がい者スポーツについて知つて体験したい、障がいにかかわらず取り組めるようなスポーツが日本でも広まってほしいと思ひました。ディスカッションでは障がい者と健常者について話しました。日本では障がいのある無環境を分けることが当たり前になつていますが、ドイツでは障がい者を分けるということなく、あくまで「普通」に関わり合います。考え方の違いを強く感じる時間も価値のある時間を過ごせたとと思ひます。

最後に、日独同時交流の関係者皆さま、そして東北IIの最高のメンバーに感謝したいと思ひます。



県の動き

表彰

○日本スポーツ少年団顕彰
 (市区町村表彰) 朝日町スポーツ少年団
 (表彰指導者) 長岡均(山辺町)、柴崎美枝(寒河江市)、岡田明(白鷹町)、菅原良和(鶴岡市)
 (感謝状) 芳賀繁雄(白鷹町)、横山修(庄内町)、梁瀬吉弘(酒田市)
 ○山形県スポーツ少年団表彰受賞者
 (優良団) ほなみミニバスケットボールスポーツ少年団(山形市)、真室川北部分部スポーツ少年団(真室川町)、米沢ダイビングスポーツ少年団(米沢市)、平野バレーボールスポーツ少年団(長井市)、峰栄男子バレーボールスポーツ少年団立川ミニバスケットボールスポーツ少年団(庄内町)、三川女子ミニバスケットボールスポーツ少年団(三川町)
 (功労者) 渡辺真好(山辺町)、工藤源七、犬飼孝吉(寒河江市)、伊藤好之(新庄市)、後藤謙一(米沢市)、中津川典広(小国町)、早坂裕子、伊藤恭子(鶴岡市)、酒井健司、佐藤正光(酒田市)

各級スポーツ少年団資格取得者
 ○認定員養成講習会兼スポーツリーダー養成講習会 六コース開催
 (参加者) 五三八名(内一一九名認定)
 ○認定員(日本体育協会公認指導者資格資格保有者) 十一名認定
 ○認定育成員 一名認定

各種事業
 ○県スポーツ少年大会兼ジュニア・リーダースクール
 八月三日～八月五日 山形市少年自然の家
 (参加者) スポーツ少年大会二十五名、ジュニア・リーダースクール九名、指導者等二十五名、リーダー四名
 ○県指導者・育成母集団研修会
 十一月十日 ホテルサンチェリー(寒

河江市)
 (参加者) 一六二名
 ○日独同時交流【受入】
 八月三日～八月七日 東南置賜地区(ドイツ団) 指導者一名、団員八名
 (ホストファミリー) 本田哲雄、安藤淳、近雅博、佐藤美喜子(高島町)
 ○日独同時交流【派遣】
 七月三十一日～八月十七日 十八日間
 (指導者) 渡部恵美(鶴岡市)
 (団員) 加藤千紘(中山町)、鈴木青樹(寒河江市)、伊藤晃任、渡部愛夢(鶴岡市)
 ○シニア・リーダースクール
 八月十一日～八月十三日 静岡県(団員) 阿部峻大(寒河江市)、高橋光(真室川町)、佐藤佳乃、五十嵐晴輝(鶴岡市)、佐藤みのり(庄内町)
 ○全国リーダー連絡会
 六月十六日～六月十七日 東京都(指導者) 本間歩(鶴岡市)
 (リーダー) 野口大輔(鶴岡市)
 ○北海道・東北ブロックリーダー研究大会
 十月六日～十月八日 北海道(リーダー) 古川かほる(中山町)、本間至、伊藤晃任(鶴岡市)
 ○全国スポーツ少年大会
 八月二日～八月五日 茨城県(指導者) 佐藤久樹(鶴岡市)
 (団員) 佐藤和、菅原滯、佐藤彪賀、大瀧重幸、大瀧康輔(鶴岡市)
 ○東北ブロックスポーツ少年大会
 七月三十日～八月一日 青森県(参加者) 齋藤雅志(庄内町)
 (団員) 金子翔磨(川西町)、中村柚介、佐藤怜斗(鶴岡市)
 ○全国スポーツ少年団競技別交流大会【剣道】(第四十二回)
 三月二十七日～三月二十九日 山口県 朝陽剣道(鶴岡市)
 【バレーボール】(第十六回)
 三月二十八日～三月三十一日 大分県 おぐにバレーボール(小国町)

○東北ブロックスポーツ少年団競技別交流大会
 【軟式野球】
 六月三十日 福島県 神町下二ユーリツチベースボールクラブ(東根市)
 【サッカー】
 七月十五日～七月十六日 山形県総合運動公園 山形FCジュニア(山形市)、F・Cやまぼうし(寒河江市)
 【柔道】
 十二月一日～十二月二日 宮城県 柔道スポ少大道館、高橋道場(山形市)、高島町柔道(高島町)、酒田市柔道(酒田市)
 【ミニバスケットボール】
 三月九日～三月十日 青森県 うめばちミニバスケットクラブ(山形市)、山辺ミニバスケットボール(山辺町)、寒南ミニバスケットボール(寒河江市)、鶴岡城北ミニバスケットボール、羽黒LBWING、Sミニバスケットボール(鶴岡市)、八幡男子ミニバスケットボール(酒田市)

●編集後記●
 来年は、「東京オリンピック・パラリンピック」で山形県関係選手の活躍も期待され、スポーツに対する関心が高くなってくることでしょう。本紙にお忙しい中、貴重な体験等を投稿いただいた「単位団紹介」「団員の夢」「リーダー紹介」などを参考に、各団とも指導者を中心として一人でも多くの子どもたちにスポーツの楽しさ、仲間作りの大切さ知ってもらえるような魅力あるスポーツ少年団づくりに工夫していただきたいものです。
 新年度に向けて新たなスタートには、地域の多様なニーズに応えられる魅力のあるスポーツ少年団活動を行い、一人でも多くの子どもたちにスポーツ少年団活動に参加してほしいものです。

編集委員
 委員長 須貝 憲明
 副委員長 齋藤 勉
 委員 奥山 保雄、高橋 章、須藤 信一
 菅野 邦彰、土屋 栄治、佐藤 利浩
 廣川 由香、柏倉 政男、鈴木 義紀
 那須 陽生

スポーツ安全保険
 文化活動も加入出来ます

対象となる事故 **団体活動中の事故 / 往復中の事故**
 保険期間 **2019年4月1日の午前0時から2020年3月31日午後12時まで**

4名以上の団体・グループで加入ください

公益財団法人 **スポーツ安全協会 山形県支部** 〒990-2412 山形市松山2-11-30
 (公財) 山形県体育協会内
 TEL **023-642-8321** 電話受付時間 午前9時～午後5時(土、日、祝日を除く。)

インターネットからも加入受付を行っております。詳しくは、ホームページをご覧ください。

携帯電話から資料請求ができます。

<https://www.sportsanzen.org>
 ●資料請求は、インターネットより受付けております。